



Breakthroughs for the future

第91期 株主通信

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで



バンダー化学株式会社



代表取締役社長

吉井満隆

株主の皆様には、日頃は格別のご高配に預かり、心から御礼申しあげます。第91期株主通信をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申しあげます。

当年度における世界経済は、アセアン地域においては、経済成長の鈍化が見られたものの、米国や中国においては底堅く推移したほか、欧州でも回復の兆しが見え始めました。また、日本経済も、政府による金融緩和政策や財政政策を背景に、過度な円高が修正され、個人消費や設備投資が堅調に推移し、総じて緩やかな回復基調で推移いたしました。このような状況のなか、当社グループは、中長期経営計画“Breakthroughs for the future”（未来への躍進）の第1ステージの初年度として、当年度におきましては、中長期経営計画を達成すべく、組織体制を刷新して「ベルト事業本部」および「エラストマー製品事業本部」の2事業本部制とし、グローバルな視点から事業戦略を実行する体制といたしました。また、国内における営業体制の強化と経営の効率化を図るべく、国内販売会社を統合するとともに、営業拠点の再編成を行い、全国を7つの地域に分けて、今まで以上に、地域に密着した営業活動を推進していく体制とし、鋭意、拡販活動を展開いたしました。一方、海外では、ベルト事業分野でアジア市場シェアNo.1を目指し、生産能力の増強を進めるとともに、市場開拓を推進し、販売の拡大に注力いたしました。これらの結果、当年度は、円安の影響もあり、売上高は934億3千4百万円（前年度比8.9%増）、営業利益は55億1千7百万円（前年度比34.8%増）、経常利益は61億3百万円（前年度比27.7%増）、当期純利益は42億8千万円（前年度比70.5%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。



中長期経営計画の達成に向けて、 まずは着実な一歩を

Q 中長期経営計画“Breakthroughs for the future”
第1ステージの取り組み状況を教えてください。

A 第1ステージでは「グローバル市場戦略の進化」、「製品の進化」、「ものづくりの進化」、「新事業の創出」、「経営品質の進化」の5つの指針を掲げ、その目標を達成すべく種々の施策を強力に推進してまいります。2013年度におきましては、特に中国やアジア地域における市場開拓や「環境、省エネ、高機能」をキーワードとした製品開発に重点を置いて取り組んでまいりました。その結果、中国やアジア地域における売上高が伸長する等、増収増益を達成することができました。中長期経営計画の達成に向けて、まずは着実な一歩を踏み出すことができたと考えております。製品開発におきましては、送風機等、様々な産業機械の動力伝達に使用できる「HFD®システム」の省エネルギー性能が高く評価され、「省エネ大賞・資源エネルギー庁長官賞」を受賞したほか、環境にやさしい難燃性ゴム床材「バンドーバンライト®EZ-Stick®」や次世代の歯付ベルト「Ceptor®-VI」等の付加価値の高い製品を開発することができたと考えております。今後もこのような市場要求に適う高付加価値製品を連続的に生み出し、市場に認めていただくことで当社の存在価値を高めてまいります。

Q 「新事業の創出」に向けた研究開発の
取り組み状況をお聞かせください。

A 当社グループの100年を超える歴史のなかで培ったゴムとエラストマーと樹脂の配合、分散、複合化という「コア技術」に磨きをかけ、これらに新しい技術を融合させることによって、新製品開発と新市場開拓に向けた取り組みを推進してまいります。具体的には、ナノ粒子創生技術を用いた金属ナノ粒子「FlowMetal®」の応用製品や分散技術を駆使して微細な材料をコーティングした精密研磨フィルム「TOPX®」のシリーズ化、ゴムの配合、分散、加工技術を活用して高い熱伝導率を発揮する「放熱シート」のほか、柔軟なポリウレタンを素材とする機能部品などの開発に取り組んでおります。これらの新製品をベースとして、当社グループの重点市場であるオプトエレクトロニクス、交通／自動車、エネルギー、ロボット分野に向けた研究開発を続けることにより、ベルト事業に次ぐ柱となる新事業を創出し、持続的な成長を目指してまいります。

特集 新事業の創出に向けたバンドーの挑戦。

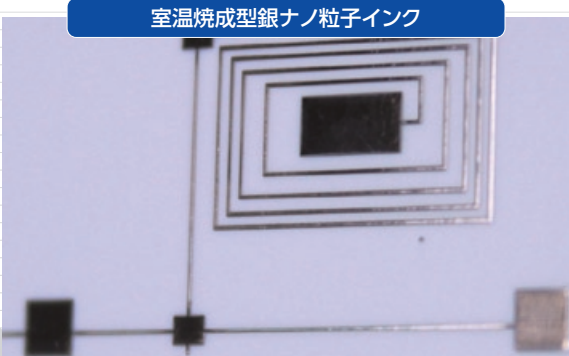
次代の柱となる新製品、新事業の創出を目指して。
トップインタビューにありますように次代の柱となる新製品、新事業の創出に向けた研究開発に取り組んでいます。
具体的には、R&Dセンターが中心となり重点市場であるオプトエレクトロニクス、交通／自動車、エネルギー、ロボット分野に向けた新製品や新事業の創出を目指してまいります。



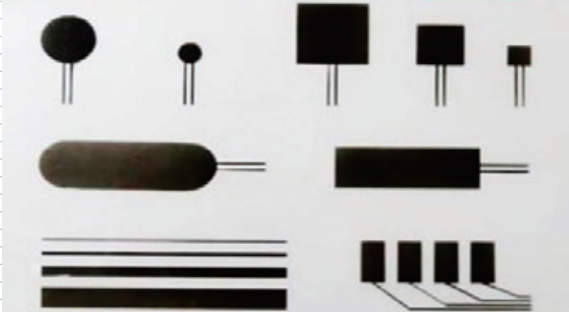
精密研磨フィルム「TOPX®(トップエックス)」が使用されるオプトエレクトロニクス分野では、データセンター・映像配信・携帯電話等の通信トラフィックの増大に伴い、技術革新が進んでおり、研磨フィルムにもナノメートル〜オングストロームレベルの高度な研磨精度が求められます。高度な研磨精度への対応と加工性を両立すべく、新開発した仕上げ研磨に使用される精密研磨フィルム「TOPX® S035」は、低い研磨荷重でも研削力の維持・向上が可能であり、光通信コネクタ製造時における加工時間の短縮や品質安定に寄与する製品です。



電子部品の製造工程では、歩留まりの向上を目的に、様々な除塵装置が用いられています。従来のブラシによる跳ね飛ばしや粘着ロールによる吸着では除塵性能や適用範囲等の制約がありましたが、「BANDO MDEC® (バンドーエムデック)」は、電子写真の技術を応用し、制御された静電気での除塵を行うため、従来対応できなかった微細な埃や柔軟なフィルム基材での連続的な除塵が可能となる製品です。今後、市場の深耕に注力してまいります。



室温焼成型銀ナノ粒子インクは、室温で乾燥させるだけで導電性が得られるため、加熱することなく電子回路を作製することを可能にした製品です。電子回路の基材の種類や形状を広げることができ、今後、プリントエレクトロニクス市場に向けた製品の開発を進めてまいります。



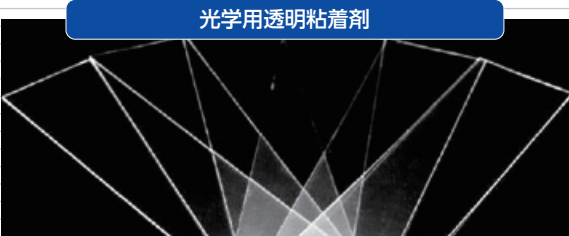
伸縮性ひずみセンサ「C-STRETCH®(シーストレッチ)」は、ゴム製の特長を活かした伸縮性に優れ、曲面への追従性が高く取り付けが容易なひずみセンサです。測定対象物の変形を妨げず大きなひずみ量を計測することが可能です。今後、工業分野、医療分野等での活用が期待されます。



250℃の加熱で半導体素子を基板上に接合でき、接合後は融点が約960℃まで上がり再溶融しない特長と銀に由来する高い熱伝導率を有する製品です。従来の金すずはんだや高温鉛はんだを用いた接合に比べ、耐熱性や熱伝導性および環境面でも優れた接合が可能となります。今後、パワーデバイス市場、LED市場、光半導体市場等に対して、積極的に営業活動を進めてまいります。



電子デバイス(パワー半導体、デジタル家電等)の高出力化に伴い、消費電力の増加とともに発熱量も増大する傾向にあります。当社の開発した放熱シートは、ゴムの配合、分散、加工技術を活用し、熱伝導性フィラーを垂直配向することで、高い熱伝導率を有するため、発熱体(半導体基板等)から効率的に熱を逃がすことができ、様々な電子デバイスの性能を維持することができます。



低硬度ウレタンエラストマー素材の特長を活かした高誘電率を有するシートです。今後、急速に普及が進んでいる電子端末(タブレット、スマートフォン)の静電容量式タッチパネル等での活用が期待されます。

TOPICS

2013
3月

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2014
1月

2月

3月

- 連結子会社である東日本バンドー株式会社が北海道バンドー株式会社を合併
- 連結子会社である西日本バンドー株式会社が九州バンドー株式会社を合併
- 連結子会社であるビー・エル・オートテック株式会社が新世代ロボット用クイックチェンジ「QUICK-CHANGE ZEUS」(150～230kg可搬)を販売開始



↑ QUICK-CHANGE ZEUS

- 「CSR報告書2013」を発行

- 連結子会社であるバンドー興産株式会社が「BANDO eco moving 足利太陽光発電所」を開設



↑ BANDO eco moving 足利太陽光発電所開所式

- 環境にやさしい「バンドーバンライト®EZ-Stick®」を販売開始
- 「第3回鉄道技術展」に出展(幕張メッセ)
- 「メッセナゴヤ2013」に出展(ポートメッセなごや)
- フィリピンでの台風被災地に対する義援金を寄付
- 次世代の歯付ベルト「Ceptor®-VI S3Mタイプ、S5Mタイプ、S14Mタイプ」投入により、シリーズ化



↑ メッセナゴヤ2013



↑ Ceptor®-VI シリーズ

- 中長期経営計画 Breakthroughs for the future (未来への躍進) を発表

- 「Intermach2013」に出展(バンコク国際貿易展示場)

Intermach2013 →



- 敷くだけのフロアサイン「STOP SHEET」を販売開始
- 「FOOMA JAPAN2013」に出展(東京ビッグサイト)
- 「M-Tech2013」に出展(東京ビッグサイト)



↑ STOP SHEET使用事例



↑ FOOMA JAPAN2013

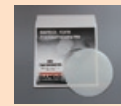
- 「M-Tech KANSAI2013」に出展(インテックス大阪)

- 次世代の省エネ伝動を実現する「HFD®システム」が「省エネ大賞・資源エネルギー庁長官賞」を受賞

HFD®システム →



- 光通信コネクタの仕上げ研磨時間を短縮し、安定した研磨精度を実現する精密研磨フィルム「TOPX® S035」を販売開始



TOPX® S035 ↑

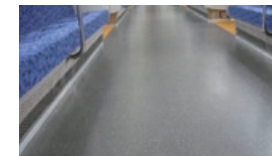
- 金属ナノ粒子製品「FlowMetal®」の応用技術として「室温焼成型銀ナノ粒子インク」、「低温焼成型銀ナノ粒子接合材」を開発

トピックス

2013年11月

環境にやさしい「バンドーバンライト®EZ-Stick®」を販売開始

鉄道車両メーカーや鉄道会社等のお客様では、これまで、主に有機溶剤(VOC)系接着剤を用いて、鉄道車両に床材を貼り付けるため、防毒マスクや排気ダクト等の対応が必要で、環境にも負荷を与えていました。このようななか、当社は、国内唯一の鉄道車両用難燃性長尺ゴム床材メーカーとして、こうした環境面や作業面の問題を解決すべくゴム床材の裏面に粘着剤を塗布した製品を開発いたしました。バンドーバンライト®は、ゴム製では難易度の高い「難燃性」・「低毒ガ斯特性」・「低発煙性」の性能を有し、多くは海外向け車両(ニューヨーク、ボストン、シンガポール、台北、ドバイ、ベトナム等)で採用されてきましたが、近年は国内での採用も増えており、当開発品によって、さらなる採用拡大が期待されます。



2013年11月

次世代の歯付ベルト「Ceptor®-VI S3Mタイプ、S5Mタイプ、S14Mタイプ」投入により、シリーズ化

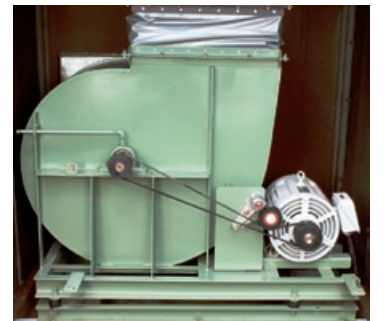
当社は、産業機械の性能向上や環境対応のニーズに対し、伝動容量や同期伝動における追従性精度等の性能面だけでなく、素材使用量の低減や低騒音化等の環境面にも配慮した「S8Mタイプ」(中型)を市場に投入し、好評を得てまいりました。最近では、小型機械や大型機械でも性能向上や環境対応ニーズが高まっており、小型の「S3Mタイプ」、小中型の「S5Mタイプ」、大型の「S14Mタイプ」をラインナップに追加することにより、お客様がさらに幅広い使用条件で、ご採用いただけるようにいたしました。



2014年1月

次世代の省エネ伝動を実現する「HFD®システム」が「省エネ大賞・資源エネルギー庁長官賞」を受賞

一般財団法人 省エネルギーセンターが主催し、優れた省エネ活動事例および先進的省エネ製品またはビジネスモデルを表彰する平成25年度「省エネ大賞」(製品・ビジネスモデル部門)において、当社が開発した平ベルト駆動システム(当社製品名:ハイパーフラットドライブシステム/HFD®システム)の高い省エネルギー性能が評価され、「資源エネルギー庁長官賞」を受賞いたしました。HFD®システムは、2008年の販売開始以来、送風機をはじめとする様々な産業機械にご利用いただいております。また、省エネ大賞の受賞によって、HFD®システムのさらなる普及が期待されます。



ベルト事業

売上高 80,034百万円 前年度比 10.7%増

セグメント利益 5,161百万円 前年度比 18.8%増

概況のポイント

- 自動車用では、中国やアジアを中心に海外における需要が増加したことにより、補機駆動用伝動ベルトや補機駆動用伝動システム製品の販売が伸長。また、アジアにおいては、スクーター用変速ベルトの販売も伸長。
- 一般産業用では、積極的な営業活動が奏功し、農業機械用などの伝動ベルトの販売が伸長。
- 搬送用では、製鉄所向けのコンベヤベルトや石炭火力発電所向けの急傾斜用コンベヤベルト、中国の樹脂コンベヤベルトの販売が伸長。豪州やカナダ等の資源開発向けのコンベヤベルトの販売が堅調。

エラストマー製品事業

売上高 12,437百万円 前年度比 0.5%増

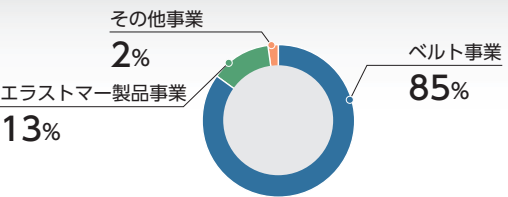
セグメント利益 11百万円 前年度は ▲163百万円

概況のポイント

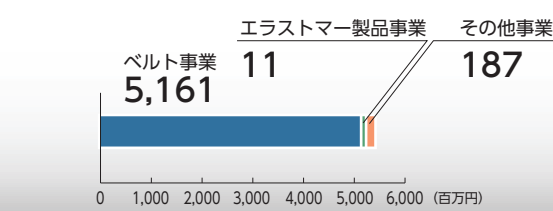
- 電子写真出力機器分野では、クリーニングブレードの販売が落ち込んだものの、長寿命化を含めた品質の高さが認められ、高機能ローラの販売は伸長。
- 機能フィルム製品では、住宅着工件数の増加に伴い、建築資材用フィルムの販売が伸長。また、インクジェットプリント用メディア「バンドーグランメッセ®」のラインナップを充実させたことにより、装飾表示用フィルムも販売が伸長。

上記の各セグメント別売上高およびセグメント利益はセグメント間消去前の金額で記載しております。

当年度の事業別売上高構成比



当年度のセグメント利益



その他事業

売上高 2,230百万円 前年度比 49.4%増

セグメント利益 187百万円 前年度比 156.2%増

概況のポイント

- ロボット関連デバイス事業では、新世代ロボット用クイックチェンジを販売開始。
- 金属ナノ粒子製品「FlowMetal®(フローメタル)」の技術を応用し、室温焼成型銀ナノ粒子インクおよび低温焼成型銀ナノ粒子接合材を開発。

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

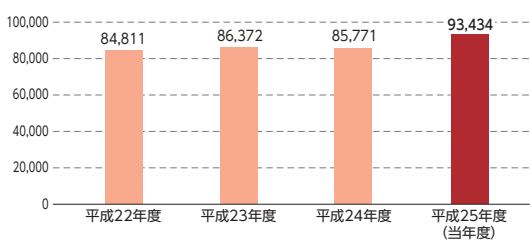
科目		当連結会計年度 (H26.3.31)	前連結会計年度 (H25.3.31)
資産の部	流動資産	45,540	41,872
	固定資産	44,081	40,334
	有形固定資産	30,822	28,433
	無形固定資産	1,059	1,111
	投資その他の資産	12,199	10,788
資産合計		89,622	82,207
負債の部	流動負債	26,785	26,145
	固定負債	13,560	12,836
負債合計		40,345	38,981
純資産の部	株主資本	49,171	45,750
	その他の包括利益累計額	△399	△2,975
	少数株主持分	504	450
純資産合計		49,276	43,225
負債純資産合計		89,622	82,207

連結損益計算書 (要旨)

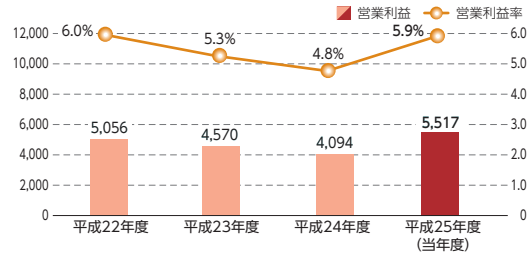
(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (H25.4.1 から H26.3.31 まで)	前連結会計年度 (H24.4.1 から H25.3.31 まで)
売上高	93,434	85,771
営業利益	5,517	4,094
経常利益	6,103	4,779
税金等調整前当期純利益	6,136	3,540
当期純利益	4,280	2,510

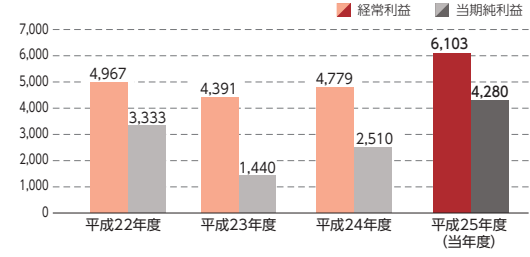
売上高 (百万円)



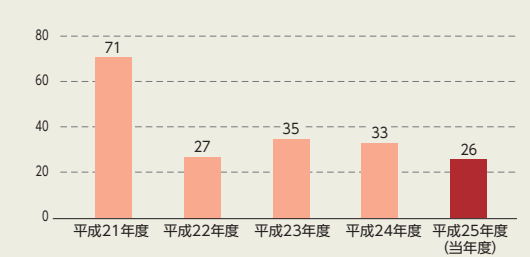
営業利益／営業利益率 (百万円)



経常利益／当期純利益 (百万円)



純有利子負債の推移 (億円)



株式の状況

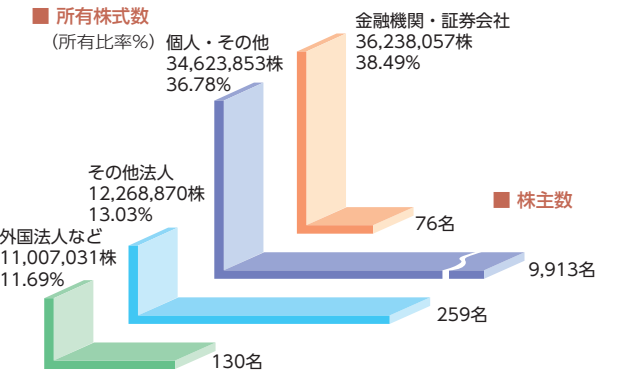
発行可能株式総数	378,500,000株
発行済株式の総数	94,427,073株
	(自己株式289,262株を含む。)
株主数	10,378名

大株主

大株主名	当社への出資の状況	
	持株数	出資比率
バンドー共栄会	7,019千株	7.45 %
株式会社三井住友銀行	4,651	4.94
三菱UFJ信託銀行株式会社	4,004	4.25
明治安田生命保険相互会社	4,000	4.24
株式会社みずほ銀行	3,600	3.82
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,150	3.34
日本生命保険相互会社	2,642	2.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,053	2.18
東京海上日動火災保険株式会社	1,839	1.95
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1,646	1.74

(注) 1. 出資比率は、自己株式数(289,262株)を控除して算出しております。
2. 上記の出資比率につきましては、小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。

株主構成



会社概要

社名	バンドー化学株式会社 Bando Chemical Industries, Ltd.
創業	1906年(明治39年) 4月14日
設立	1937年(昭和12年) 1月7日
本社事業所	神戸市中央区港島南町4丁目6番6号 TEL (078) 304-2923
ホームページアドレス	http://www.bando.co.jp

事業所

本店(本社事業所)・R&Dセンター(神戸市)
東京支店、名古屋支店
足利工場、和歌山工場・伝動技術研究所
南海工場(大阪府泉南市)、加古川工場

役員(平成26年6月24日現在)

取締役および監査役

代表取締役社長	吉井満隆(社長執行役員)
代表取締役	玉垣嘉久(専務執行役員)
取締役	中村恭祐(常務執行役員)
取締役	柏田真司(執行役員)
取締役	加登豊
常勤監査役	宮本伸一郎
常勤監査役	松坂隆廣
監査役	紀伊博
監査役	多田徹

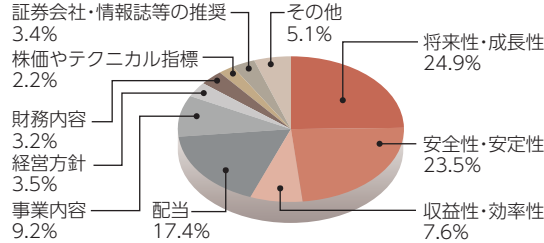
執行役員

常務執行役員	大原正夫
常務執行役員	岩井啓次
常務執行役員	北林雅之
常務執行役員	鮫嶋義壽
執行役員	大嶋義孝
執行役員	Joseph David Laudadio
執行役員	畑克彦
執行役員	山口勝也
執行役員	永瀬貴行

※取締役 加登 豊氏は社外取締役であります。
※常勤監査役 松坂 隆廣氏、監査役 紀伊 博氏、監査役 多田 徹氏は社外監査役であります。

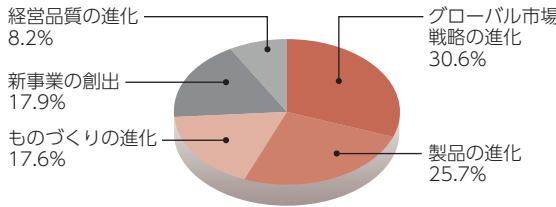
第91期中間株主通信(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に同封してアンケートをお願いしましたところ、多くの株主様からご回答いただきました。その集計結果の一部をご紹介します。
アンケートにご協力いただきました株主の皆様へ、心より御礼申し上げます。

当社株式を購入された理由をお聞かせください。



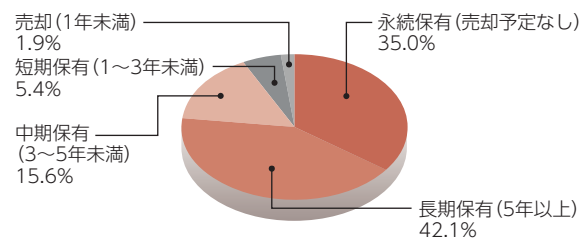
当社の「将来性・成長性」に着目され購入された株主の皆様が最も多く、続いて「安全性・安定性」、「配当」という結果となりました。株主の皆様のご期待にお応えするよう、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

中長期経営計画の第1ステージにおける5つの指針のうち、株主様として最も重視するものは何ですか。



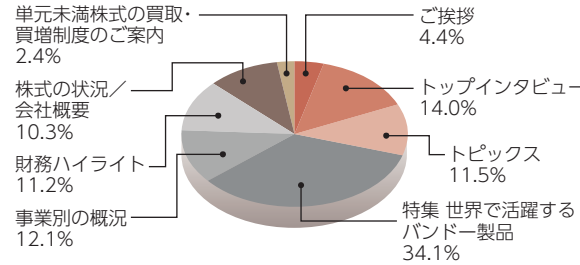
「グローバル市場戦略の進化」が最も多く、続いて「製品の進化」、「新事業の創出」という結果となりました。当社はグループ丸となって、中長期経営計画の経営目標達成に取り組んでまいります。

当社株式の今後の保有方針についてお聞かせください。



「長期保有(5年以上)」が最も多く、続いて「永続保有(売却予定なし)」、「中期保有(3～5年未満)」という結果となりました。

第91期中間株主通信でご興味を持たれた記事は何ですか。



「特集 世界で活躍するバンドー製品」が最も多く、続いて「トピックインタビュー」、「事業別の概況」という結果となりました。この結果を踏まえ、株主の皆様にご満足いただけますよう、内容のさらなる充実に努めてまいります。

株 主 メ モ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同 連 絡 先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 TEL（通話料無料） 0120-094-777
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞・神戸新聞
上 場 取 引 所	東京（第1部）

〈ご注意〉

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

BANDO



バンドーグループは
環境にやさしい事業を
推進しています

